

肉牛肥育業務効率化への取組

R6追加事例

事業者名：株式会社ハंक・ファーム

業種：畜産業 従業員数：4名



肥育牛管理システムの導入で、戦略的な肉牛肥育の実現へ

取組の概要

- 部門：肥育農場
- 業務：肉牛肥育業務
- 目的：効率的な牛肥育業務の実現のため
- 技術・手法：肥育牛個体管理システム「特選牛」
- 期間：R6.6.28～R7.1.31
- 費用：260千円（税抜）



各種情報を登録



蓄積された情報から
日々の原価や正確な
損益を把握



肥育牛の棚卸や出
荷成績の集計・分
析が可能

現場業務

管理業務

分析業務

取組の背景

- 抱えていた問題点
 - ・肥育牛の棚卸や出荷成績の集計・分析に手間がかかっていた。
 - ・蓄積されたデータが経営戦略に活用されていない。
- 解決に向けた課題設定等
 - ・素牛金額、資料金額、諸経費等をシステムで管理することで1頭当たりの日々の正確な原価を把握する。
 - ・牛は個体差が大きく、素牛の選定が重要なポイントである。販売成績との因果関係を分析することで客観的かつ効率的な素牛選定の手法を確立させていく。

取組の成果及び今後の展望

- 取組の成果について
 - ・素牛の導入から肥育、出荷までをワンストップで管理することで質の高い肉牛肥育業務を実現（デスクワーク 20時間/月 削減）
- 今後、どのようにDXに向けて取り組んでいくか等を記載
 - ・システム化により蓄積したビッグデータを分析することで、自社ブランド牛（八郷牛）の価値向上、認知拡大に役立てていきたい。ブランド牛の確立により競争力を高め、その後の企業変革・事業変革を実現させたい。